平安符

解説・効験・使用方法

正一道教団は漢代に成立したため、この符の構成には漢代の世界観である天・人・地の「三才」思想が反映され、上・中・下の三部に分けられる。

「平安符」は魂魄の平穏と厄除けを目的としている。この符は上・中・下の三部に分けられ、上部は五行の化炁を表し、太上老君が整えて転化した五行の力を源とした法力と能力を示している。中部は管轄となる斗府を表し、下部は「三五都功火車将軍」による守護を表している。

五行化炁

この符号は太上老君によって転化された木火土金水の五行の化炁を表し、符の効力の源を示している。

また、『黄帝内経』素問の生気通天論に「人、五行の気を稟（受）け生ず」とあるが、身体の五行の炁にはしばしば偏りや過不足が生ずる。そのため、修煉の要諦として『霊宝無量度人上品妙経』五行備足生霊壽域品に「五行備え足れば、則ち気運平正たり。気運平正たれば、人に天傷無く、各々その天年を全うするを得る。」とあるように、太上老君が精煉・転化した五行の炁について言及し、修煉によって身体の五行の炁の不足を補い、不均衡を正すことができるとする。

斗口・七星

道教の言い伝えに、星が降って人として生まれたとするものが多く見られるが、人の生まれを星宿と関連付ける思想の源は古代中国に見ることができる。『詩経』小雅「小弁」に、「天の我を生ずるも、我が辰は安くに在る（天が私を生んだというが、私の星はどこにあるのか）」とあり、王充の『論衡』命義に、人の寿命と貴賤の差異は全て星の貴賤と大小によって生じたものとあり、葛洪の『抱朴子』塞難に、人は星宿の働きによって生命を授かるとあるように、人の生命と星宿には関連があるとされた。

正一道教団は、斗府が人の生死と元神の働きを掌るとする。また、斗府は東・南・西・北・中の五斗の星宿を統括しているとされ、「五斗米道」とも称された教団草創当時の入門者は五斗の米を納めて五斗の星宿を祀ることがしきたりとされた。これは五斗の星々が人の生命を掌り、米は生活に必要な食料であることから、道教が生命を重視する宗教であることを示すために行われた。道教が養生を重んじ、長生術を修め、生命に害を為す妖魔や邪鬼の駆除に長けていることはよく知られている。斗府への祈願は正一道教団を発祥としており、斗府に元神の繁栄を祈願する科儀として礼斗法会がある。

「斗（ ）口（）」の二字は斗府の守護を表している。傾いて描かれている口の字は斗勺の中に水が入っていることへの隠喩であり、下部に描かれている「火車（）」の字と対となる。『尚書』洪範が五行の特性を「水、下に潤し、火、上に炎ゆ」と示しているように、この符は水が上方から下り、火が下方から上るという特性を表した上水下火の構成となっており、両者の対流と止むことのない循環を形成している。

上水下火の概念は『易経』第六十三卦「火水既済（ ䷾ ）」として表されている。卦象に「水、火の上に在るは既済なり」とあり、「既済」の字義は既に河を渡り終えたこと、すなわち成功に至ったことを示す。一方、物事の極まりは衰えの始まりでもあることを忘れてはならず、卦象に「君子以て患を思い予め之を防ぐ」とあるように、成功に至った時こそ身を慎み、危険から身を遠ざけるべきである。この姿勢は符を持つ者にも同様に求められる。

七回のはらいは北斗七星を表している。『霊宝無量度人上品妙経』七星除祆品に「天に三台有り、人に三魂有り。天に七星有り、人に七魄有り。三魂、陽を主とし、七魄、陰を主とす。」とあるように、北斗七星は人の七魄に対応する。七魄は陰に属する比較的不安定な性質を持ち、道教では七魄が毎月（陰暦）の初一・十五・月底（或いは七・十七・二十七日）に勝手気ままな振る舞いをして穢れることで病・死・衰退をもたらすとする。そのため、北斗七星が七魄を掌ることにより身体の安寧が保たれ、修煉を行う者は七魄の鍛錬をより一層進めることができる。

三五都功火車将軍護身

「火車」の字は守護神である「嶽府太保轟雷火車鉄元帥」を表し、名は定、東嶽十太保の一柱であり「捉鬼鉄元帥」とも称される。

東嶽とは五嶽の首とされる泰山を指し、漢代には人の死後の魂が帰る霊峰とされた。東嶽大帝は冥界の最高統治者であり、『東嶽大帝宝誥』に「人間善悪の権を掌り、天下死生の柄を専とす。奸悪を懲らしめ三十六主の獄に分け、吉凶を司り七十二曹を案じ判く。」とあるように地獄や土地神全体が管轄に入る。

東嶽十太保は東嶽地祇司に属する神々である。東嶽地祇司は温元帥が管轄し、東嶽の兵を統率し、彷徨って悪さをする霊魂を迅速に捕らえる役目を持つ。温元帥は名を瓊、元々は唐代の軍官で後に道を修めて東嶽太保として仙化し、正一道の玄壇四大元帥の一柱となり、第三十代天師張継先（虚靖天師）を守護した。地祇とは地の神を指し、国家・人民への功績を成し、死後に神として封じられて祭祀の対象となった者である。太保は古代の三公の一つで最高級の官位であり、九品の位で正一品にあたることから、東嶽太保は冥界における高位の官職といえる。

この符において鉄元帥は「三五都功火車将軍」の職責を担う。三五都功とは正一道草創期に定められた二階級の法籙の一つであり、火車将軍は職称を表し、『道藏』の咒語に「火車火車、雷令の家・・・」とあるように、火車とは稲妻のことで迅速さと猛威の表れとされる。

最後のはらいが鉄元帥が悪霊を迅速に追いかけて捕らえる姿と痕跡を表す。

「陽平治都功印」・「天師」印

符の印章は非常に重要で、印章の無い、或いは誤った印章を用いた符に効験は無い。正一道教団が主に用いる印章は「陽平治都功印」と「天師印」で、共に祖天師の功績に由来する。

「治」は祖天師が正一道教団を創設した際に設けた教区を指し、当初は二十四節気に基づいて二十四の治が設けられ、後に二十八治へと拡大した。中でも陽平治は治の筆頭とされて正一道と天師の拠点となった。治は正一道の教区を示すと共に管理・秩序・文明の意味があり、『三洞珠嚢』は『玄都律』を引用し、性・命・魂・神の属する場所とする。太上老君は祖天師に陽平治の統治を命じ、各治に教団幹部を「都功」として派遣した。したがって、「陽平治都功」は陽平治の統治者である祖天師の職名であると共に、祖天師自身と宗教的権力の象徴でもある。

符にこれらの印章を用いることで、天師が効験を付与したことを示している。

「平安符」効験

この符は内外双方の守護の効験を有する。内には符を持つ者の魂魄を守護し、外には魑魅魍魎や悪霊に対する厄除けの働きを示す。

「平安符」使用方法・禁忌

家族が集まるリビングに貼る、もしくは携帯して使用するが、先祖の位牌の側に貼ったり近づけたりしてはならない。符を使わなくなった時は金紙と共に焚く。

2023/03/20

正一嗣漢張天師府
第六十五代天師張意將
彰化縣芬園鄉彰南路五段 888 號
彰化 TEL:049-2511199 台北 TEL: 02-28366519
網址： www.cts65.org